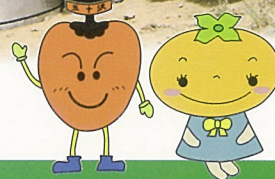


五十沢地区 まちづくり計画

五十沢夢プラン



五十沢自治会
2015.3.31

五十沢地区

スローガン

「五十沢再発見！

協働の絆でささえる復興・再生

未来に向けての郷づくり」

五十沢

表紙の説明

高丸山 標高289.5m

震災前までは、毎年5月に高丸山登山が行なわれていた。

高丸山登山の開催目的より抜粋

「高丸山は地域のシンボルの山として親しみ愛され、五十沢青年団歌の一部にも、『高丸山に夜が明けて』と詠まれ愛唱された経過があります。

山ツツジが咲き誇る新緑の一日、我が郷土を山頂から眺望し、ふるさとの再発と……」

現在、残念ながら原発事故に伴う放射能汚染により、高丸山登山は実施されていない。

目次

- 1 はじめに
スローガン「五十沢再発見！協働の絆でささえる復興・再生
未来へ向けての郷づくり」
 - 1) 計画書作成について
 - 2) 計画作成の背景
 - 3) まちづくり計画の目的
 - 4) 計画作成の経過
 - 2 五十沢地区の
地域の問題点と課題点そして魅力
 - 3 これからの目標
(教育・文化 部門)
(地域産業振興 部門)
(交通環境・防犯・防災 部門)
(福祉・高齢化対策 部門)
(情報・人材育成・地域資源活用・イベント)
 - 4 部門別取り組み内容
 - 5 事業執行体制
- ### 資料編
- 1) 五十沢の歴史・地理
 - 2) 地域の現状（人口と世帯数の推移）
 - 3) 規則・要綱編 まちづくり計画に関する基本方針
五十沢まちづくり検討委員会設置要綱
五十沢まちづくり計画について
 - 4) 現在までの取り組みの経過
 - 5) 住民意識調査編 主なもの
 - 6) 住民懇談会要約資料編

スローガン「五十沢再発見！協働の絆でささえる復興・再生
未来へ向けての郷づくり」

計画書作成について
計画作成の背景
まちづくり計画の目的
計画作成の経過

1) 計画書作成について

近年、地域住民が自ら考え、行動し、自らが責任を持つ、つまり、地方の自立、自治そして創生が大きくクローズアップされています。

さて、五十沢地区では、昭和30年の町村合併、梁川町に編入されたのを機に翌昭和31年2月、地区民の世論をまとめ、教育文化、産業振興、福祉の増進及び住民相互の親睦をはかるため、五十沢自治会を結成、今日まで全地区民の皆様のご理解ご協力、そして、ご支援をいただきながら、様々な事業に取り組むことができ、その結果五十沢地区の豊かな自然と、先人が築いてきた素晴らしい文化が融合した、豊かで住み良い五十沢地区を守ることに、大きな成果をあげて参りましたことに対し、衷心より厚く感謝申し上げます。

しかし、時代の変遷、特に地方を取り巻く現状は大変厳しく、人口減少、少子高齢化、そして、産業の空洞化による雇用不安など様々な課題が、山積の状況になっていることは、周知のとおりであります。

特に、五十沢地区の人口動態(資料)を見ると、若人の人口減少が著しいことから、将来、五十沢地区の健全なコミュニティ維持継続が大変難しいのではないかと危惧され、今、自治会設立の趣旨・目的に沿って何らかの対策、取り組みが必要であると、認識するものであります。

この度、五十沢自治会では、この不安解消を図るため、平成25年5月から全住民を対象にアンケート調査を実施、その結果を基に、多くの住民代表の皆様と話し合いを行い、明るく住みよい五十沢地区を創るための具体的な行動内容を記載した計画書を作成したものであります。

以後、この計画書に基づき積極的に活動して参りたいと存じますので、五十沢地区住民皆様の更なるご理解、ご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年3月

五十沢自治会 会長 佐藤 徳治

2) 計画作成の背景

少子高齢化と人口減少は、五十沢地区だけでなく全国的な傾向であることは、だれもが認識しているところであります。

ところで、五十沢地区が今まで人口の多かったのはいつの頃か、村誌によると、次の如くである。

昭和25年の人口 2,132人 (男1073人 女1059人)
戸数 328戸 一戸当たりの人数 6.5人

同じように、現在の人口他は、次のとおり。

平成26年10月の人口 980人 (男482人 女498人)
世帯数 292世帯 1世帯当たりの人数 3.3人

この数字は、何を物語っているのか。

64年間で、世帯数は36世帯の減少に対して、人口はなんと、1158人で55%の減少である。大家族から核家族?に、なってしまったかのようだ。

本計画書作成にあたって、そのきっかけとなったのは、まさに、五十沢地区の人口が1000人をきったことにある。

平成18年の5町合併で伊達市梁川町五十沢が誕生した。

かつて、五十沢村であったが、昭和30年の町村合併で梁川町に編入されたのを機に、翌昭和31年2月、地区民の世論をまとめ、教育文化、産業振興、福祉の増進及び住民相互の親睦をはかるため、五十沢自治会を結成した。長らく、地元による地元のための活動に取り組んできたが、現在に至って、改めてそれを問い直す時期がきたと言える。

いま、五十沢自治会は、抱える課題を解決するためその対策を講じていくことが急務となっている。

幸いなことに、梁川総合支所から平成22年11月に「まちづくり計画策定に関する基本方針」が出された。策定の趣旨は「地域の現状・課題を明らかにし、その解決に向けて取り組み、さらにはみんなの希望や夢を実現していくため」とあり、本計画書の作成を進めるうえで弾みとなった。

平成23年3月に、本計画作成に取りかかろうとしたときに東日本大震災と原発事故が発生した。取り組みが始まったのは、平成25年5月からである。

そこでまず、地域の現状・問題点を把握し抽出する意味から、五十沢地域住民の意識調査を行った。それを踏まえたうえで、計画書の作成に臨むことにした。

3) まちづくり計画の目的

地元住民の意思による地域の姿かたちを創造し、「絆」や「愛着」そして、「夢」のあるまちづくりを進める。

そのために次のことを推進する。

- 1) 「住民意識調査」の結果を十二分考慮し、将来のビジョンとなる「五十沢地区まちづくりマスタープラン」を作成する。

・現状を把握する目的で「住民意識調査」を実施し、課題の確認をする
とともに、未来に向けての地区民の総意としてのプランを作成する。

- 2) 作成したマスタープランの具現化を図る。

・「絆」や「愛着」・「夢のあるふるさと」を目指して、地元住民との交流
や親睦をはかるとともに、地区外の人たちとの交流の取り組みを模索
し、各種団体や県・市との連携を得ながら進める。

- 3) 「五十沢まちづくり計画」にそった事業を推進するための組織体制の確立

・マスタープランの具現化により、自治会のさらなる組織の強化を図る。

4) 計画作成の経過

平成25年5月13日に五十沢自治会会長が12名の役員を集めて「夢プラン」の協議を始めた。

そのときに出された意見

- ※ 6年間で五十沢の人口が200人減を知った。
- ※ 情報を収集し発信する体制が必要
- ※ 人を寄せるなら場所づくりが重要
- ※ 全戸にアンケートを行なって現状の把握
- ※ 他地区を参考にしながら

同年6月に住民意識調査（アンケート）を実施した。

まちづくり委員を15名にした。（自治会役員と各種団体長）

平成26年5月にアンケートの結果がまとまり、6月に5つの分科会を設置し、アンケートの結果を参考にしながら、計画作成の協議を始めた。

同時に、自治会内にまちづくり検討委員会の要綱を取りまとめた。

五つの分科会を設置しメンバーを増やして、広く意見を求め協議する時間をつくった。

分科会委員 46名 各種団体長と学識経験者等々（委員名は資料参照）

分科会は4回（のべ8時間）行った。

「まちづくり準備会」を「まちづくり検討委員会」にした。

さらに、先進地視察研修を実施（那須塩原市）した。

2. 五十沢地区の問題点・課題点そして魅力

五十沢地区の問題点課題点

五十沢地区の魅力

1) 五十沢地区の問題点・課題点 （アンケート結果より）

問 題 点

- ① 人口が減っていく。子どもが少なくなっていく。

少子化は、高齢化の影になって問題視されなかったが、ここに至って深刻さを増している。小学校が廃校となり、地域から子どもの声が聞かれないだけでなく、未来もなくなる。自治会だけではどうすることもできない。

- ② 遊休農地が増える。

先祖伝来の田畑が、荒れ果てることは、生活環境が変化していくことでもある。

- ③ 国道349号線の整備

県境にある五十沢地区にとって国道の整備は欠かせない。
交流人口が増加するか否かにも関わる。

- ④ 未婚者が多い

少子化を解決するには、結婚する機会の場を作ることであるが、同時に人の魅力や住環境の魅力も大切

- ⑤ 観光スポットがない。

地区外との交流人口を増やすのは活性化にとって欠かせない必須なものである。

話題性のあるロケーションと名産品を作ることである。

「あんぽ柿」は、名産品であるが、ロケーション（風景・場所）が、ないので作る必要があるのではないか。

課 題 点

- ・ 五十沢の PR 不足
- ・ 魅力的な地域づくり
- ・ 婚活の企画がない
- ・ 定住するための住宅の整備
- ・ 人口が増えるような施策が必要
- ・ 高齢社会に対応した組織づくり
- ・ まちづくり推進体制の確立
- ・ 6 次化の促進

2) 五十沢地区の魅力 (いいところ・場所)

- ① 人情味がある。人が好い。
親切で優しい人・たのしい人が多い。
- ② 宮城県との重要な通行手段である、国道 3 4 9 号線がとおっている。
- ③ 阿武隈川と白鳥の飛来地であり、堤防がある、景観がとても良い。
空気が良く、自然豊かで景色がいい。陽当たりが良い。
- ④ 特産のあんぽ柿がうま～いです。

3 これからの目標 (専門部会別)

☆教育・文化 部門

インターネットの活用
ホームページの活用等を通して、地域の各種情報を発信し、地区内外の人々との交流をはかる基盤を整備する。

☆地域産業振興 部門

あんぽ柿をメインにして活性化に取り組む。

☆交通環境・防犯・防災 部門

安全・安心して暮らせる地域づくりを目指す。

☆福祉・高齢化対策 部門

高齢者へのあたたかみのある地域づくりを目指す。

☆情報・人材育成・イベント 部門

地元に住む青壮婦老・老若男女の交流・イベントを通じて活性化をはかる。

五十沢自治会は以上の目標を勘案しながら、各種事業の取り組みを進めていく。

4 部門別取り組み内容

☆教育・文化 部門

必要なテーマ	方策として	イベント・企画等	期間
地元の良さを再認識	素材の収集	目録作り・写真に記録 文化祭で展示 記録の保管庫が必要	短期 短期 長期
情報発信	ホームページの開設	日常的に情報の発信	短期
人が来るようにする	地区外との交流事業	柿の木のオーナー フォトコンテスト 五十沢探検 桃狩り	中期 短期 短期 短期

☆地域産業振興 部門

問題点・課題点

- *少子高齢化で、遊休農地が多くなっている。
- *あんぼ柿も品質のバラつきが見られ、品質の低下がみられる。
- *加工製品を作っても、発信する場所がない。
- *空き家が多くなってきている。
- *あんぼ柿発祥の地なのに、何もされていない。
- *あんぼ柿以外の知名度がある農産物や場所等々がない。
- *農家離れが続いている。

対 策 と 計 画 期 間

テ ー マ と 方 策	期 間
◎既存の施設を利用して あんぼ柿ミュージアムのような館を作る。	中 期
空き家などを利用して、体験や、加工品の販売、 食事などもできる農家カフェやレストランを作る。	中 期
◎あんぼ柿の品質のばらつきをなくすために、マニュアル等を 作成して食べておいしく、リピーターがつくような 「五十沢ブランド柿」を作る。	短 期
◎水車の活用、売店などの設置	短 期
◎若者を対象にした、農業塾の企画・開催 (遊休地を利用して野菜づくりをして農業の良さをつたえる)	中 期
◎五十沢の特産品……あんぼ柿、桃、柿、野菜、での 限定商品の開発をする。 例えば、焼酎、スイーツ、その他	短 期

具体的な事業の内容

☆やはり五十沢は、あんぼ柿を主体として活性化するのが一番ではないか。
あんぼ柿発祥の地をアピールしながら、一年中見学できて、食べて、体験ができるようなミュージアムを既存の施設を利用して集客し、特産品の販売も、ネットなどを利用して行なえないか検討すべきである。

☆交通環境・防犯・防災 部門

交通・環境 (現在もそして今後にも必要な対策)

テ ー マ	方 策	期 間
◎国道349号線、滝沢橋の早期架け替えの 要望と歩道の整備	要望活動	短 期
◎岡崎町内付近（お墓の付近）国道349号線 と旧道のY字路に、ガードレールの設置	要望書の提出	短 期
◎高齢者による自動車運転時マナーの厳守指導	講習会の開催	短 期

防 犯

テ ー マ と 方 策	期 間
◎高齢者世帯が多くなってきています。 伊達警察署等協力し、電話などでの犯罪に 巻き込まれないような指導、対応機能のついた 電話機の普及や設置。	短 期
◎街路灯の必要な箇所を調査し設置	短 期
◎高齢者が長期不在になる時の連絡体制。(町内会ごとにでも)	短 期
◎外出時（高齢者宅も）の施錠、火の元の確認の指導。	短 期

防 災

テ ー マ と 方 策	期 間
◎防災訓練の年一回の実施。	短 期
◎災害時の安否確認、状況把握等の 連絡確認体制の確立。(町内会ごとに)	短 期
◎防災行政無線の受信機等の整備。メールでの対応等 (自治会長・町内会長・その他関係者等)	中 期
◎消火栓に太陽光での夜間照明設備の設置。	中 期
◎防災マップに崖崩れ、土砂災害危険箇所の追加、 案内板の設置。	短 期

☆福祉・高齢化対策 部門

必要なテーマ	方策として	イベント・企画等	期間
高齢者の一人暮らし 交流がない	地域毎にお茶飲み会	世代間交流	短期
高齢者元気づくり (認知予防)	料理作り (自分で考える) 趣味の集会	2～3町内会集合して 郷土料理づくり 勉強会 (町内会長を主として)	短期
高齢者参加 イベント開催 (コミュニティ)	体力づくり 脳トレーニング	輪投げ(体協と協力) 軽スポーツ(長生会と協力) 子どもたちと一緒にやる	短期
身体不自由の 高齢者対応	緊急時連絡方法 (自然災害等) 元気の時は玄関に 黄色い旗を立てる。 緊急電話機の推進	送迎(町内会・役員協力)	長期

☆情報・人材育成・イベント 部門

テーマ	方 策	期間
人との交流こそが 育成や情報の収集 につながる	グラウンドゴルフ大会	短期
	花見の会	短期
	そば打ち	短期
	阿武急の柿ばせウオークの活用で共催イベント	長期
社会に役立つ人材の 育成	青少年の育成、青少年団の結成	短期

短期・中期・長期について

短期については、1～2年に取り組みことで比較的容易なこと。
中期については、3～5年に取り組むことで、時間のかかるもの。
長期に行うについては、5年以上かかり、多額の資金を要するもの。

5 事業執行体制

事業執行体制については、五十沢自治会の発足を踏まえた運営組織の充実を図る。

